

第5章 ネットワークのあり方

1 ネットワークの必要性とその方法

個々のボランティア活動にしろ、ボランティア団体による組織的な活動にしろ、それらをつなげるコーディネーターの役割にしろ、すべての動きにおいて、他とのつながりを回避していくは有效な活動が展開できません。特に災害時における活動では、時間の経過に伴い、刻一刻と状況の変化があり、ボランティア、行政、その他の組織などの役割を効果的なものにするためには、時間経過に伴う状況判断とニーズ変化を的確に受信し、それぞれの機能や役割をより有効な方向へと変化させなければなりません。そのためには、ボランティア、行政、その他の組織などが常に情報交換のできる環境、すなわちネットワークが必要となります。

① 共通の目標達成のためのネットワーク

災害時には、さまざまな人、団体（組織）が、現地に入り、その役割を果たすべく活動を行います。そしてより有効な救援活動や復興活動を展開するためには、それぞれの特性を活かしたつながりと協働の展開が必要となってきます。それぞれの立場を理解し、尊重し、連携していくことが基本であり、そのような“協働”が、想像以上の成果を生み出すものです。その場面において、個々の立場だけを主張しても反発と批判が生まれるだけです。このことを理解しなければネットワークは成立しません。

災害という緊急時だからこそ、個々の目標が一致し、日頃付き合いの無かった団体（機関）とも連携を取ることができるのです。とはいってもそれが黙々と自己の目標達成のためにのみ動いていたのでは連携も協働も生まれません。そこで、ネットワークをつくり上げる作業を担う人や団体が必要となってきます。行政もその一翼を担うことが期待されます。

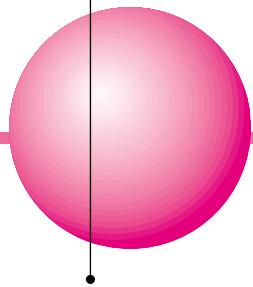
ひとことメモ 9

「地域のネットワーク組織」

福祉関係団体	消防、防犯関係団体
環境関係団体	婦人関係団体
青少年関係団体	P T A
文化・芸術関係団体	青年会議所
宗教団体	企業、労働組合
町内会、自治会	商店主関係団体
	など

② ネットワークが組みやすい環境を創る

このネットワークは、単に情報交換の場に終わらせるのではなく、団体間の調整的な役割と、より有効かつ創造的なパートナーシップの形成を行うための出会いの場所となることが必要です。行政主導の活動展開をするための調整の場



でも、単に連携するための調整の場でもなく、個々の持ち味をより有効に活かしていくための創造的な連絡調整の場であることが重要です。

このようなネットワークを持つことにより、例えば、救援物資の偏りや過不足の調整、ボランティア配分の調整、人材の調整などがスムー

ズに行えるのです。このような調整によって、地域の住民にかかる負担を軽減することができるわけです。行政としては、このような総合的なコーディネーション機能を持つネットワークを整備し、維持することがもっとも重要な役割になります。

2 平時における地元団体のネットワークのあり方

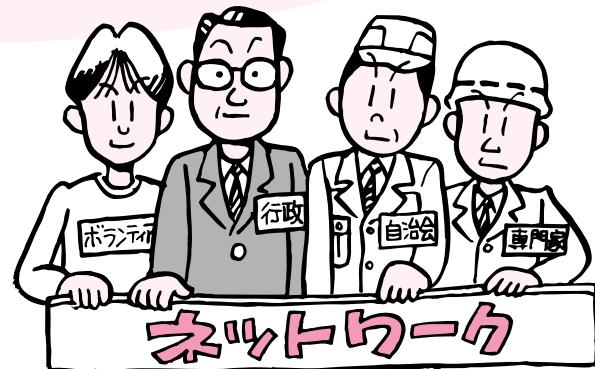
ひとことにネットワークといつても、単なる情報交換の場であれば簡単に組織できます。より有効で創造的なネットワークというのは、参画する個人、団体（組織）の考え方それぞれの特徴があり、簡単に創りだせるものではありません。しかし、敏速な対応を求められる災害という緊急時ほど、このネットワークが大切になります。

そこで緊急時に備え、平常時においてのネットワークが必要となります。そのネットワークは、各分野のボランティア団体、行政、自治会、専門家など多様かつ重層的なつながりであればあるほど有効です。

① 平時のネットワークが災害時に生きる

先にあげた災害時でのネットワークは、他地域のボランティア団体も含めて初めて効果を現すものです。とはいえ、災害時の困難の中に新たなネットワーク組織を立ち上げるにはかなりの力を必要とします。そこで、最低でも地元で活動する各分野の団体や専門家などの平時におけるネットワーク組織があれば、災害時においてもその機能を移行拡充させるだけで機能します。

もっとも、この平時のネットワークは災害時だけのネットワークではなく、日常的な活動においても有効にその役割を果たすことが



必要です。つまり、災害時などの緊急時にすぐに機能するように、常日頃からそのネットワーク組織を活用しておく必要があります。平時に充実しつつ有効な組織運営がされているかどうかが、災害時の機能にも反映されてくるのです。

また、平時からのネットワーク機能が充実しているほど、災害時に他地域のボランティアや団体が急激に押し寄せてきても、地元の主体性のある行動がとれるのです。